

課題名	26 モモの施設栽培	分類	②
	施設栽培モモの収穫直前生理落果の果重と性状		
試験研究年次	2年(完了)		
I 目的			
<p>モモの施設栽培において生産を不安定にする収穫前の生理落果について、現地の実態を把握しその防止対策に資する。</p>			
II 試験方法			
<p>八女郡広川町において、加温ハウス栽培の山加早生(成木、1月26日被覆)、武井白鳳(成木、1月10日及び1月27日被覆)を用い、収穫直前に落果した果実の性状を調査した。</p>			
III 主要成果の概要			
<p>モモの施設栽培における収穫直前の生理落果は、核割れが落果の主要因である。</p>			
<p>1 “山加早生”では、収穫直前の落果の原因は、核割れによるものである。</p>			
<p>2 “武井白鳳”では、ごく一部に過熟による落果がみらるが、収穫直前の生理落果の主原因は核割れによるものである。</p>			
<p>3 核割れによって落果する果実は、平均果重130～150gと小さいものが多い。</p>			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 モモの収穫直前落果の果重と性状 (2年)

品種	作型	調査月/日	果重(性状)
山加 早生	加温ハウス	5/14	180g(核割れ)、120(核割れ)、150(核割れ)、
	1/26被覆		160(核割れ)、120(核割れ)、100(核割れ)、 140(核割れ)、130(核割れ)、150(核割れ)、 110(核割れ)、110(核割れ)、100(核割れ)、 170(核割れ) (平均129g)
武井 白鳳	加温ハウス	5/15	140(核割れ)、180(過熟)、170(核割れ)、
	1/10被覆		110(核割れ) (平均150g)
		5/18	120(核割れ)、160(核割れ)、140(核割れ)、 (平均140g)
	加温ハウス	5/15	210(核割れ)、160(核割れ)、160(核割れ)、
	1/27被覆		150(核割れ)、130(核割れ)、130(核割れ)、 100(核割れ)、120(核割れ)、100(核割れ) (平均140g)
		5/18	170(核割れ)、150(核割れ)、140(核割れ)、 120(核割れ)、100(核割れ)、120(核割れ) (平均133g)

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 核割れの発生は、品種に因るところが大きいので核割れしにくい品種の導入・更新が収穫前生理落果の防止に必要である。
- 2 硬核期における土壌の乾燥から湿潤への急激な変化は、新梢の栄養生長を促して核と枝葉との養分の競合を起こし、核割れを引き起こすので、土壌水分管理の適正化に努める。

VI 今後の研究上の問題点

VII 資料名

63～2年度 福岡県農業総合試験場果樹関係試験成績書